

Q. 小学校教科担任制の運営は



しばたけんいち
柴田賢一 議員

SHIBATA Kenichi

A. 国県の専科教員増員を活用し推進

令和4年度から、全国の公立小学校の高学年に対し、教科担任制が導入されることが決まった。この政策は、公立小学校の5・6年生を対象とし、外国語（英語）、理科、算数、体育の4教科を優先的に導入されるというものである。従来の学級担任制から大きく変わるので、多くの期待が寄せられるとともにどんな課題があるのか質問する。

Q 教科担任制のメリットについて本町はどのように考えているのか。

A 教育委員会事務局長
教員が複数学級の指導に当たることで、授業の質の向上、均等の水準・内容の授業が期待できるとともに教員の負担軽減も図ることができると考えている。

Q デメリットや課題は、どのように考えているのか。

A 教育委員会事務局長
教員配置が十分でない中で教科担任制を推進した場合、教員間の連絡調整や児童

の情報共有などの面で手間が増える上に、時間割の調整が大変難しくなる。

令和4年度からどのように運営するのか。

A 教育委員会事務局長
本町の各小学校では、従来から非常勤の専科教員、再任用教員、教頭・教務主任・校務主任などが担当して、外国語、理科、音楽、家庭科などの教科で教科担任制を実施している。

国や県では小学校高学年における教科担任制を推進するための専科教員の増員を図っている。本町では、今後、この制度も活用して教科担任制を推進していく。



▲エブリバディ！教科担任制

高校入試の日程前倒しにより中学3年生の行事は、**A** 教育委員会事務局長
3年生の後半は、生徒にとって進路中心の学校生活となり行事日程に影響を及ぼす。

Q 学校行事全般に影響があるのではないかと。

A 教育委員会事務局長
例年では5月に3年生の修学旅行、6月に2年生の自然体験学習、9月に体育大会、10月に文化祭、1月に1年生のスキー研修がある。入試日程の前倒しにより、学校行事をすべて見直し調整している。

Q スキー研修は入試日程と重なるが問題はないか。

A 教育委員会事務局長
スキー研修をはじめ他の

Q. 高校入試前倒し、スキー見直しを A. 本来の目的を踏まえ 中学校と協議

学校行事についても、受験に支障のないように慎重に方策を講じていく。

Q スポーツ体験学習の時期や内容を見直せないか。

A 教育長
中学3年生の適切な進路指導は、中学校の最も重要な役割のひとつである。スポーツ体験学習については、本来の目的を踏まえ教育委員会と中学校で協議を重ねている。



▲貴重なスキー体験ではあるけれど…

記念事業

キラメキ事業

3月定例会

議案PICKUP

一般質問